

Our Life 115 号

静岡福祉文化を考える会

代表 平田 厚

〒420-0841 静岡市葵区上足洗 3-7-15-5

Tel & Fax: 054-246-1486

編集委員 家本豊 古屋貴彦 河野恵介

平田厚

* * 内 容 * *

- 「福祉文化研究セミナー」の原点から、「福祉文化」と市民性を学び合う……………P.1
- 1,443 枚の調査票回収！「居場所ってなに？ その意識と実態調査」いよいよ分析作業に……………P.2
- 全委員出席による「第 2 回共創社会研究会」議論深まる／「ボランティア等善行功労賞」受賞……………P.3
- 事務局日誌拝見／今後の本会関連事業予定／本会入会案内／編集後記……………P.4

「第 16 回静岡県福祉文化研究セミナー」で、「福祉文化」は 55 年前から 私たちに呼びかけている。その原点を市民 22 名とともに学び合う

第 16 回を迎えた「静岡県福祉文化研究セミナー」に、22 名が参加して 11 月 25 日（土）、静岡市清水区追分「寄って亭」で開催した。今回の研修テーマは、「静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所」。

平成 14 年 11 月 30 日・12 月 1 日の 2 日間、裾野市、裾野市社会福祉協議会、社会福祉法人富岳会の全面協力のもと、裾野市市民文化センターにおいて、全国各地から 650 名の参加者が「富士山麓 いのちとくらしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに、熱く議論。そして、静岡県から「福祉文化の火」を消さないためにも、この大会を「第 1 回静岡県福祉文化研究セミナー」として、繋ぎ続けて 16 年。人々が、ささえあいながら、住み慣れた地域で暮らし合う地域環境をいかにして創り出すか、地域の現状をしっかりと把握しながら、「共助」による福祉コミュニティ構築に向け、「集まる、地域ぐるみの居場所」の実現に向けたプロセスを学び合った。また、「居場所ってなに？ その意識と実態調査」の取り組みのプロセスを報告し、ワークショップでは、これまでの「居場所議論」をさらに深め合い、「実現したい居場所」を検証した。

主な「実現したい居場所のキーワード」を挙げると、「応能な負担で経費を捻出」「会話・笑顔のあるプログラムを持たない自由性」「趣味・出会い・生きがいを得られる環境」「自分も役立っていると思える、価値観の交換と互いに認め合う場」「対等な関係」「地域の情報が得られる場」「生活圏域で歩いていける範囲・移動が困難でない」「食育環境」「生涯教育との連携」「企業の協力がある」「世代を超えたふれあい交流の場」「地域ボランティアの育成の場」「趣味・健康を伸ばす場所」…etc.

セミナー参加者からの意見は、「アイスブレークの導入で、次のプログラムが話しやすかった」「ワークショップは、みんなの意見が集まり、大きな渦を生み出しがよく解った」「和やかさが感じられた 地域での研修環境の改善に参考にしていきたい」「自由に入りする「居場所」であっても、経費（財源）は根本的に考えたい」「あらためて、「福祉は文化」という重みのある言葉、内容を考える機会を持ち良かった」「自分たちの地域、自治会のあり方などの課題を浮き彫りにして、気兼ねなく「集まる居場所」の実現に向けて努力していきたい」「居場所がいろいろなどころにあると、問題解決につながる」…etc.



1,443 枚の調査票を回収できました！！

「居場所ってなに その意識と実態調査」いよいよ分析作業開始！！

「静岡福祉文化を考える会」は、この 22 年間、「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

今年度は、福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業 一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言一を課題として、これからの中長期的な福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、「家庭機能」のあり方を問いつつ、既存の「居場所」の現状を整理し、県民の意識と実態調査結果から浮き彫りになった課題をもって、これからの福祉コミュニティのあり方を問い合わせし、「真の居場所」の開拓と共にその「地域の担い手」を検証する。

11月10日をもって回収を終えたが、調査依頼の回収状況は、

No.	依頼先	個所数	依頼枚数	箇所実数	回収実績枚数	回収率
1	会員	24	240	11	80	33%
2	地域実践者	150	870	73	640	74%
3	市部社会福祉協議会	23	690	17	428	62%
4	町部社会福祉協議会	12	240	11	135	56%
5	施設・団体・企業	4	160	4	160	100%
計		213	2,200	116	1,443	65%

と、実に、予想をはるかに超え、1,443 枚の調査票を回収することができた。

【地域別回収状況】

地域	回収枚数	回収率
東部	739	51%
中部	379	26%
西部	325	23%
計	1,443	100%

これまでの調査研究活動 22 年間を振り返ると、回答協力の多かった「調査」を年次別に挙げると、今回の回収実績は、4 番目に多い結果となった。

- 平成 26 年度「豊かに暮らせる地域づくり その意識と実態調査」 1,673 枚
- 平成 25 年度「長寿者とつながるホットするご近所づくり その意識と実態調査」 1,671 枚
- 平成 24 年度「私にとって、家族ってなに？ その意識と実態調査」 1,583 枚
- 平成 29 年度「居場所ってなに？ その意識と実態調査」 1,443 枚**
- 平成 23 年度「地域と私の居場所 その意識と実態調査」 1,440 枚
- 平成 22 年度「生活圏域における支え合い、本音に迫る調査」 1,345 枚
- 平成 21 年度「長寿社会に関する県民意識と実態調査」 1,341 枚
- 平成 12 年度「父親像に関する実態調査」 1,320 枚
- 平成 20 年度「長寿者の生きがい その意識と実態調査」 1,274 枚

既に、本会役員 4 名と、常葉大学同好会「若者発 “居場所” あり方研究会」7 名によるデータ入力作業に取り組み、いよいよ、これから、分析・考察を 12 月 10 日～1 月 10 日までに完了し、公表・報告は、平成 30 年 2 月に予定。この間、1 月には「第 3 回共創社会研究会」で議論し、3 月の報告書発行につなげる。

“自分の地域”をしっかりと把握すること 全委員出席による「第2回共創社会研究会」議論深まる

22年目の地域活動に取り組んでいる本会は、今年度「ふじのくに未来財団助成事業・静岡トヨタ（株）「ハイブリッド基金」助成事業」を受けて、「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業－ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言－」をテーマに、地域ぐるみでささえあう環境をいかに構築していくかを研究協議している。本事業を円滑に運営していくために、新たに、各領域から構成された「共創社会研究会」（地区実践者、コミュニティ関係者、社会福祉協議会職員、若者領域、本会会員等16名の委員構成）は、3月末まで4回開催することとしている。11月11日（土）に、県総合社会福祉会館で開催した「第2回共創社会研究会」は、16名全員が出席した。今回は、「居場所ってなに」の地域ニーズを把握し問題提起をする「調査活動」、世代や領域を超えて地域総合型学習会とした「公開型研修会」の成果を議論しながら、これからのかommunityを検証した。更に「実践地区検証活動」を12月～1月に取り組むに当たり、意見交換をした。研究協議の議論は、「事業報告書」にまとめ、県民に問題提起をする。

第2回研究会からいただいた主な意見は、「地域を取り巻く環境の価値観の共有の大切さ」「いろいろな意見をこうした研究会の場で共有していくことの意義は大きい」「NPOの居場所や施設の居場所等広く“なげる”ことの必要性を感じる」「狭い地域で、取り組んでいる現状から、幅広く、意見を参考にして、活かしていくことが大切」「議論を深めていくことは良い」「住民への啓発は更に継続していくべきである」「しっかりと、地域性を把握し、ケースバイケースで取り組むことが重要である」「地域全体に理解を広めていかなければならない。また、地域を動かすためには組織化活動も必要」「いろいろなことに気づき、伝えられるメッセージをこれからも努力していきたい」「居場所実践現場に学ぶ意義は大きい」

今回の研究会には、常葉大学・同好会「若者発“居場所”あり方研究会」会員3名が出席し、「どうやったら若い人の地域参加ができるかを考えることが出来た」「面白さ、わくわく感がキーワード」または、「自分が何ができるかを考えていた。友達と地域活動に参加し、いろいろな人と関わる。できることを少しづつでも取り組みたい」などの意見を述べ合った。

各委員は、「何かを得て帰れる。若者の声を聞ける。自分たちの地域にもいる！若者のコーディネートが求められる」などを語った。



「福祉文化」を探求して21年 静岡市より「ボランティア等善行功労賞」受賞!!

本会は、11月23日に、静岡市役所において、静岡市功労者表彰条例により、「平成29年度静岡市表彰」を受けた。受賞内容は、「21年にわたり、一人ひとりが豊かに暮らし合える社会の実現を目指して「調査研究活動」や「公開型研修会」を通して身近な福祉課題について問題提起をするとともに、世代を超えた市民相互の学習の場を提供するなど、市民の模範となる活動に取り組んできた」と表記されている。



事務局日誌拝見（10/25～11/30）

- 10/25 Our Life 114号発送／第16回静岡県福祉文化研究セミナー開催案内周知
10/26 調査票回収 614枚（28%）
10/27 ふじのくに未来財団へ事業実施状況報告／当面の事業の取り組み協議
11/01 調査票回収 772枚（35%）／本会が静岡市表彰決定との連絡をいただく
11/02 調査票回収 900枚（41%）／データ協力学生との連絡調整
11/03 第2回共創社会研究会関連資料作成
11/04 調査票回収 954枚（43%）
11/07 データ協力学生へ経過報告／調査回答協力者への礼状・送料等文書発送作業開始
11/08 小山町、御前崎市、湖西市等から調査に関する問い合わせあり（追加調査回答あり）
ふじのくに未来財団への事業実施状況経過報告／第2回共創社会研究会開催に関するマスコミ対応
11/09 第2回共創社会研究会関連資料作成
11/10 ふじのくに未来財団との連絡調整（11/30開催の活動報告会関連）
11/11 第2回共創社会研究会開催（全委員出席により研究討議展開）
本会支援の「第5回港地域ささえあい講座実行委員会」開催
11/14 実践地区訪問検証計画作成作業実施（訪問先打診作業）
11/16 本日までに、151名の調査協力者への礼状と負担額の支払い事務手続き実施
第16回 静岡県福祉文化研究セミナー準備作業実施（～11/24）
調査票礼状者及び地域実践者50名に「セミナー参加呼び掛け」実施
ふじのくに未来財団との連絡調整（調査票回収状況）
11/17 調査票回収 1,417枚（64%）／本日をもって回収終了／学生協力者に調査票渡す
11/21 ふじのくに未来財団に出向き、経過報告（調査・研究会・実践地区訪問）実施
11/23 静岡市表彰式出席
11/24 調査票データ入力状況確認／第16回 静岡県福祉文化研究セミナー最終確認
11/25 第167回委員会開催／第16回 静岡県福祉文化研究セミナー開催
11/30 ふじのくに未来財団活動報告会に出席し、関係企業関係者との意見交換をする

【今後の本会関連事業予定】

- 12/24～01/19 助成事業に関する「実践地区訪問検証」の取り組み（県内6地区予定）
12/02 第4回港地域ささえあい講座開催
12/16 第6回港地域ささえあい講座実行委員会開催
01/13 第3回共創社会研究会開催

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか？？

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、平成28年度に21年の節目を迎えました。平成29年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

- ◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円
- ◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗3-7-15-5
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

編集後記

いよいよ、「居場所ってなに？」その意識と「実態調査」は、尊い1,443枚の回答をいただき、データ入力作業、そして分析作業へと移行する時期を迎えた。データ入力協力者7名の精力的な活動には頭が下がる。

今日的な「社会の課題」とも受け止められたのか、この22年間の調査研究活動では4番目に多い回収状況である。調査と共に、本会のこうした調査活動への励ましや、調査結果を期待している手紙が多い。何とか、こうした活動を大切にした「福祉文化実践活動」として、努力を積み重ねていきたい。